



地方大学における国際的視野を持った医療人の育成への取り組み

高知大学医学部 医療学講座医療管理学分野 小林 道也
外科学講座臨床腫瘍・低侵襲治療学 (兼)

文部科学省によると平成16年以降、海外留学をした日本人が減少しています。医学部では「国家試験合格」という最も重要な目標があり、他学部と異なり、学部学生時代に長期の留学をすることは現実的ではなく、医師となった後、研究者として海外に留学することが一般的です。私ども高知大学医学部では、国際的視野を持った医療人の養成を目標として、学部学生(医学科・看護学科)、研修医に対してさまざまな取り組みを行っています。

私が平成17年に高知大学医学部国際連携推進委員会委員長をおおせつかって以来、ハワイ大学医学部や台湾大学医学部と積極的な交流を展開してまいりました。私自身が1986年12月から1988年2月にかけてハワイ大学医学部に留学していたこともあり、個人的なつながりを利用して以前から多くの学生を派遣していました。夏休みを利用して14名の5年生、6年生を2週間ずつホノルルのQueen's Medical Centerに臨床実習生として受け入れていただいた年もありました。しかし、時代の変化で日本人医学生を受け入れが徐々に難しくなっていましたので、一時個人的な学生派遣を中断していました。近年では1-2時間の病院見学をお願いするだけで料金が発生してしまったり、病院によっては感染防止の観点から受け入れを中止していたりします。

その後、大学としての正式な交流を推進するため、2006年ころからハワイ大学医学部の先生方と何度も協議を重ね、2010年2月にやっと交流協定を締結しました。この協定締結には以前から家族ぐるみでお世話になっていたDr. Ruth Onoやハワイ大学医学部副医学部長のDr. Satoru Izutsuの多大なご尽力があつてのことです。台湾大学医学部とも2011年10月に協定を締結しました。台湾大学医学部は、ご存じのとおり、日本統治時代の昭和11年に台北帝国大学医学部にルーツを持つアジア有数の大学です。現在、両大学とも双方向の学生交流、研究者交流を続けています。

具体的な交流についてご説明します。まず、数名の医学科学生を2-3年時にハワイ東海大学で開催される医学英語のワークショップに派遣します。その後、4-5年生を対象に年に1-2回ハワイ大学医学部で開催されるワークショップに派遣します(写真1)。さらに、英語力が優れている者は6年時の選択実習の一環として4週間ホノルルのKuakini病院で臨床実習に参加することができます。以前はTOEFL iBTテストで95点以上の成績が臨床実習に参加する条件でしたが、現在ではハワイ大学の試験官とのSkypeによるインタビューによって可否が決定されます。年によりばらつきはありますが、毎年1-2名がホノルルで米国の医療に実際に触れる貴重な体験をしています。昨年は正式に2名、臨時で1名、今年は2名の学生が臨床実習に参加しています。ハワイでの実習は高知大学医学部のカリキュラムにおける選択実習の期間に当たっており、Kuakini病院での4週間の実習が本学での単位として認められています。不思議なことに、以前、個人的に派遣していたころからの傾向ですが、ハワイ大学のワークショップ、臨床実習に参加を希望する学生の多くが女子学生です。

また、看護学科では学生6名を台湾大学に1週間派遣し、現地で地域看護などの体験をしています。学生は台湾大学に行き、その規模、先進性、さらに学生の英語力に大いに刺激を受けて帰国してきます。

一般的に医学部では、アジアの大学からは日本へ訪れることが多いのですが日本からはアジアへ行くことが少なく、また欧米の大学へは日本からは留学するものの、欧米からは日本へやっこないといふことが多いのですが、私どもの交流はいずれも、一方通行ではなく、ハワイ大学医学部の学生、台湾大学医学部の学生も高知大学医学部で同じ条件で研修を受けることができるよう、あくまでも双方向の交流を心がけています。また、これらの派遣には大学としてある程度の経済的補助を行っています。



写真1 John A. Burns School of Medicine (JABSOM) (ハワイ大学医学部) で開催されたワークショップ (平成24年8月)



写真2 JABSOM 学生と高知大学医学部医学科学生による国際セミナー (平成24年7月 於・高知大学医学部 低侵襲手術教育・トレーニングセンター)



写真3 台湾大学 Nursing School 学生と高知大学医学部看護学科学生による国際セミナー (平成25年1月 於・高知大学医学部 低侵襲手術教育・トレーニングセンター)



写真4 台湾教育部の黄端政 政務次官との懇談会 (平成25年3月 於・台北)



写真5 第二回ハワイ国際交流セミナー (平成25年2月 於・Pacific Beach Hotel, Honolulu)

また、協定校の学生が高知に訪問する際には、本校学生とのプレゼンテーション、ディスカッションを英語とする国際セミナーを企画しています。今年度はいずれの大学とも「地域医療」をテーマに開催しました。国により「地域医療」のとらえ方や学生時代に行っている地域での活動が異なり、双方の学生にとって有意義なものになっています。当初は英語でのプレゼンテーション、ディスカッションを心配していた学生や教員も、このセミナーを通じて“意外とやるじゃない”といった感想を話しています (写真2、3)。

今年3月には高知大学脇口宏学長と私が台湾の教育部 (日本の文部科学省) の招聘で台湾を訪れ、5つの大学の見学と、今後の国際連携についてのディスカッションをいたしました。その期間中、教育部の黄端政政務次官主催の歓迎レセプションにも招待され、教育部の方々をはじめ、各大学の国際担当部長とも意見交換をしました (写真4)。さらに、外交部の蘇啓誠アジア太平洋州局副局長と会談する機会もありました。今後の台湾と日本の大学の国際化に向けた協定について、また大学の法人化、合併などの問題について意義のある意見交換をしました。

一方、がん診療に関わるおおむね10年以下の若手医師に対しては高知県医療再生機構専門医等養成支援事業補助金で、海外派遣事業を展開しています。海外で開催されるワークショップ、セミナー参加、もしくは

国際学会発表などに要する費用を全額補助しています。昨年度は、サンアントニオ乳がんシンポジウムや、シカゴの Rush University Medical Center での内視鏡手術セミナーへの参加をはじめとして、海外での研修プログラム参加の補助をいたしました。さらに、高知大学医学部附属病院がん治療センター主催の第二回ハワイ国際交流セミナーを開催し、若手医師の参加を補助しました。高知大学医学部が協定を締結しているハワイ大学医学部のスタッフや、現地の医療スタッフによる講演と日本の若手医師による講演、さらに日系人を中心としたデイケアセンターである Sakura House や Queen's Medical Center、ハワイ大学医学部の見学なども企画し、欧米の医療に接する機会を提供しました。この様子は Ustream を通じて世界同時発信を行い、深夜にもかかわらず、ネットを通じて日本から質問が寄せられてきました。このセミナーは平成23年度に引き続き高知大学のがん治療センターが企画、開催したもので、一部企業の共催もありますが、講師の選定、会場の予約、設営などすべて手作りで行っています (写真5)。

このように高知という地方でも学生、研修医時代からできるだけ海外の医療に触れる環境を整え、将来、国際舞台での活動へとつなげることができればと願って努力を続けています。